

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（グローバル展開プログラム）
研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題

情報化やAIなどの技術革新および環境問題などに直面する新たな人文学・社会科学の展開

研究テーマ名

技術革新および環境化学物質は不妊を増加させたか

責任機関

国立大学法人東京大学

研究実施期間

令和元年10月～令和4年3月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者	小西 祥子	東京大学・大学院医学系研究科・准教授
グループリーダー	森木 美恵	国際基督教大学・教養学部・上級准教授
分担者	赤川 学	東京大学・文学部・教授
グループリーダー	吉永淳	東洋大学・生命科学部・教授
分担者	今井秀樹	東京医療保健大学・東が丘・立川看護学部・教授
分担者	早乙女智子	ルイ・パストゥール医学研究センター・研究員
グループリーダー	岩本晃明	国際医療福祉大学・臨床医学研究センター・教授
分担者	山崎一恭	一般財団法人筑波麓仁会 筑波学園病院・泌尿器科医長

配分（予定）額

（単位：円）

令和元年度	令和2年度	令和3年度
5,175,300 円	10,367,500 円	10,337,600 円

※令和2年度・令和3年度については予定額

研究目的の概要

日本は世界でもっとも多くの不妊治療が行われている。情報革新がもたらした性情報・サービスの氾濫は、性にまつわる規範、倫理、行動を革命的に変化させた。同時に、増え続ける環境化学物質への曝露は、ヒトの生殖機能を低下させている。本研究は日本人を対象と

し、人文学、社会科学ならびに環境科学の手法を用いて、「技術革新と環境化学物質が不妊を増加させた」という仮説を検証することを目的とする。

研究計画の概要

研究倫理委員会の承認を得てから、（１）技術革新が性規範および性行動に及ぼす影響、（２）環境化学物質への曝露が生殖機能および性行動に及ぼす影響、（３）性行動および生殖機能が不妊に及ぼす影響についての調査研究を実施する。（１）はフォーカスグループインタビューの手法を用いて定性的な分析を行う人文学・社会学的な研究であるのに対し、（２）は生体資料を収集して化学物質への曝露量を測定し、生殖機能および性行動との関連を定量的に推定する自然科学的な研究である。さらに（３）でシミュレーションモデルを用いて両研究の結果を統合し、技術革新と環境化学物質が不妊に及ぼす影響を評価する点が、これまでの研究にはない新たな試みである。